

一般社団法人イーストとくしま観光推進機構外部評価委員会 議事録

日 時 令和 7 年 6 月 24 日 (火) 午前 10 : 00～
場 所 あわぎんホール 4 階 会議室 4

司会	1 開 会 10 : 00 定刻となりましたので、ただいまから、「一般社団法人イーストとくしま観光推進機構 令和 7 年度 外部評価委員会」を始めさせていただきます。 はじめに、資料の確認をさせていただきます。 事前にメールでお送りしました資料につきまして、本日は印刷したものをお配りしております。 次第、資料 1「外部評価委員会設置要綱・名簿」、資料 2「令和 6 年度事業報告」、資料 3「地域再生計画」、資料 4「デジタル田園都市国家構想交付金実施計画」、参考資料として「観光 DX しこくろりのチラシ」、「防災ツーリズムコンテンツのチラシ」、「観光パンフレット繁体字版」、「県東部圏域住民意識調査票」の以上、9 点でございます。資料の不足はございませんでしょうか。 また、委員会終了後には、議事録の要旨を作成し、委員の皆さまの確認を経て、委員長承認をいただいた後、当機構及び 15 市町村のホームページにて公開してまいりますので、よろしくお願いいたします。 議事に入らせていただく前に、一般社団法人イーストとくしま観光推進機構外部評価委員会設置要綱について、事務局より説明します。
事務局	2 外部評価委員会設置要綱の説明 【要綱について説明】 ・新旧対照表を基に、改正点 ・任期が 2 年先の年度末までである ・委員を 2 名追加
司会	3 委員の紹介 ありがとうございました。 それでは、あらためて委員の皆さまのご紹介をさせていただきます。今回から、委員を 2 名追加させていただき、6 名構成とさせていただきました。 豊田哲也（とよだてつや）委員でございます。 高木博代（たかぎひろよ）委員でございます。 佐藤憲治（さとうけんじ）委員でございます。 青木伸太郎（あおきしんたろう）委員でございます。 梯学（かけはしまなぶ）委員でございます。 浅野敏司（あさのさとし）委員でございます。 4 委員長・副委員長の選出

司会	続きまして、本委員会の委員長の選出を行います。委員長は、外部評価委員会設置要綱第4条第2項により、委員の互選で決定することとなっております。本来ですと、委員から仮の議長を選出していただき進行をお願いするところですが、時間の関係もございますので、引き続き事務局で進行させていただきます。 どなたか候補者の推薦があればお願いいたします。
E 委員	引き続き、豊田哲也委員に委員長をお願いしてはいかがでしょうか。
司会	ただ今、豊田委員を推薦するご発言がありました。いかがでしょうか。 【異議なしの声】
司会	それでは、委員長は豊田委員に決定しました。 議事に移りたいと存じます。 委員会の議長は、委員会設置要綱第5条の規定により、委員長があたることとなっております。豊田委員長よろしくをお願いいたします。
委員長	会議の進行につきまして、ご協力よろしくをお願いいたします。 まず、副委員長の選出を行いたいと思います。 副委員長は、外部評価委員会設置要綱第4条第3項により、委員長の指名により決定することとなっております。 引き続き、高木委員をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか？ 【異議なしの声】 高木委員、副委員長をよろしくをお願いいたします。
5 議 事	
委員長	それでは、議事に移ります。 本日の議事は、「令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金」を活用した事業の評価と効果検証でございます。 内容について、事務局より、報告をお願いいたします。
事務局	【資料2 前段を中心に説明】
委員長	ただ今の説明について、ご質問はございますか。 ないようですので委員の皆さまからご意見を頂戴したいと思います。まずはA委員、いかがですか。
A 委員	旅館業をしていますが、国や県の補助金で半額補助してもらったために残りの半額を捻出しないとなりませんが、結局「自分のやりたいこと」じゃないこ

	とをやる場合も出てくる。そうすると、旅館の個性＝アイデンティティがなくなってしまう気がするんです。 補助金って「ありがたい」反面、足かせにもなりますよね。形式的な要件に縛られると、本来の目的が見えなくなることもあります。 KPIを見ると、「来訪者満足度」は上がってるけど、「住民満足度」はまだまだ低く感じます。訪れる人に「いい街」と思ってもらうには、まずは、住んでいる人が「いい街」だと思えるようにしていかなければなりません。
B 委員	私が文化振興をやっている時のモットーが「ずっと住み続けたいと思える街をつくる」だったんです。イベントなどの時のにぎわいだけでなく、住民の誇りや喜びがあってこそ観光は成立します。
A 委員	実際、インバウンドのお客さんが駅から眉山に歩いてると、地元の人が「行くところないのにどこ行くんだろう」って心配することがある。こういった発言は、住民の側が、自分の町に対して誇りを持っていない証拠かもしれません。
委員長	データで気づいた点を指摘します。KPI で宿泊者数の推移を見ると、2020 年から 2024 年にかけて倍増しています。しかし、2020 年はコロナで極端に宿泊者が減少した年で、これを基準とするのは不適切です。比較すべきはコロナ前の 2019 年ではないでしょうか。
事務局	おっしゃる通りです。デジタル田園都市国家構想交付金の計画作成時点が 2020 年だったので、その年をベースにしましたが、2019 年のデータも持っています。たしかに 2019 年には 206 万人、2020 年には推計値ですが、109 万人まで落ちこみ、その後 2023 年ごろにようやく回復していきたく状況です。
委員長	他県とクロスセクションで比較することも大事ですね。隣の香川、高知や、奈良、島根、鳥取あたりの観光回復データを横並びで見ることで、徳島の強みと弱み、回復の程度が明確に示せるはずです。
B 委員	農村舞台の復活を支援した時もそうでした。子や孫も外に出て、地域の未来に希望が持てなかった人たちが、舞台をやることでたくさん人が来て、誇りを取り戻しました。「自分の村はすごい」って初めて思えたんです。観光協会や DMO は、プロモーション重視になりがちですが、それだけではなくて「地域に根差した観光コンテンツ」を育てる役割も果たさなきゃいけない。たとえば、新町川を守る会のような市民活動を DMO が支援してもいいと思うんです。観光だけが担うことではないんですが、地道な取り組みも視野に入れていただければなと感じています。
委員長	本当にそうですね。地域づくりで「誰がやるのか」は永遠の課題です。「連携して取り組みます」という常套句は、裏を返せば「誰も責任を取らない」他人まかせになりかねません。

B 委員	一人でも始める人がいれば変わるんですよ。新町川の中村さんなんか、毎日川に立って掃除してる。「誰もやらなくても自分がやる」って言い切れる人が一番の文化人だと思います。 温暖な気候で水もたっぷりあって特に吉野川周辺は肥沃な土地があり、その土地で藍を作って経済も人形浄瑠璃も発展してきました。その徳島のストーリーを全面に押し出していく。そういった大きな意識の変革や共通認識を持つことこそが文化だと思っています。
C 委員	最近マルシェとか水辺のイベントで、ちょっとずつ賑わいが戻ってきてる感じもある。そこに外国人が来てくれたりすると、住民も嬉しくなる。そういう循環を増やしたいですね。先日新町川で行われていたコーヒーのイベントもすごい盛り上がりでした。
A 委員	結局、「住んでよし、訪れてよし」は、観光だけでなく、文化、教育、暮らしすべてに繋がっていき、その結果、町の魅力が向上していくこととなるということですよね。
D 委員	日本の DMO は国の交付金の活用方法として注目され増えてきた側面があり、交付金・補助金に頼った運営になるのは仕方ない面があると思います。一方で全国どこの DMO も体験型コンテンツの造成や磨き上げなど、やっていることが似たり寄ったりです。抱えている悩みも同じです。どう差別化していくかが課題ではないでしょうか。
事務局	たしかに、補助金を確保することに大きな労力を要しているのも事実です。少しずつでも「補助金に頼らない仕組み」も考えていかないといけない時期にきているのかもしれない。
D 委員	DMO の最終的な目標は地域住民の生活水準の維持・向上だと思います。そういう意味で住民満足度調査の結果は重要です。地域の人々からすると、観光は自分達と関係ない専ら“外向きの話”だと誤解されているところがありますが、地域住民のための取り組みであることをもっと理解していただくために地域住民向けの直接的な取り組みも必要かもしれません。例えばレストランウィークみたいな企画を DMO が地域の飲食店と一緒にやってみたらどうでしょう。結構古めかしい手法ではありますが、アメリカの大都市では飲食店の閑散期に合わせてやっています。最初は徳島市だけでも、10 店舗ぐらいから始めて、ちょっと高くても普段は行けないようなレストランや料亭に協力してもらって、地元食材を使った限定ランチを例えば 2,500 円とかで出させていただく。地元の人にとったら普段行けない飲食店に行く良い機会になりますし、それを目当てに近隣から観光客がくるかもしれない。お店にとっても新規顧客の獲得につながります。地域住民が DMO を身近に感じることで、観光振興事業への理解にもつながると思います。 今日、私は阿波市から来ていますが、DMO の方々には日頃から本当にお世話になっています。プロダクトアウトの商品造成も大事ですが、マーケットインの発想により、データに基づいたマーケティング戦略をより充実していただきたいです。事業者との距離が近いイーストさんならではの、各市町村の観光政策の指針になるようなマーケティングに大いに期待しています。

E 委員	最近「シビックプライド（地域への誇り）」を高めるにはどうしたらいいかというテーマで調査してるんですが、ポイントは、10 代後半から 20 代前半の若者が地域に主体的に関わろうとする環境があるか。そうした活動をしている大人の姿が若者に見えているかが大事です。 そうした意味では、イーストさんでは、昨年高校生に出前授業をされていましたが、その取り組みはシビックプライドを醸成する上でプラスになったのではと思います。
委員長	若年層への働きかけは非常に大事ですね。徳島大学・徳島県・イーストとくしまで共催している「観光コーディネーター養成講座」もありますが、大学生では遅すぎるくらいで、中高生のうちに地域への愛着を育てる教育が必要だと思います。学校への出前授業や地域での体験を、教育委員会や学校と連携してもっと広げられたらよいのではと思いました。 他に意見はございませんでしょうか。
E 委員	インバウンドを取り込むには「直行便の開設」、「買い物や滞在の拠点化」が重要ですが、もう一つが既にインバウンドが来ているエリアの成功体験を研究し、自分たちのエリアにも取り入れ、できれば連携していくことが重要です。例えば、瀬戸内国際芸術祭のようなイベントと連携できれば、香川県や淡路島といった周辺地域と手を取り合うことで、徳島にも波及効果が出る可能性があると思います。 ただ、広域連携には県や市の意向も絡むので、現実的にはハードルが高く、香川県主導のイベントなので、徳島が入っていくのは難しいかもしれません。しかしながら、徳島独自でなにかをやろうとしようとするれば、ブランド構築に何十年もかかってしまうことを考えれば、連携を模索するのが一番の近道になります。
A 委員	徳島は観光が基幹産業じゃない県ですからね。製造業に支えられてきた歴史があります。香川や高知と違って、観光予算も 1 桁 2 桁違いますし。ただ、観光で地域を元気にしようという“危機感”が少ないのは気になります。
委員長	他に外貨を稼げる有力な産業があるから観光に頼らないというのは一見よいことに見えますが、その産業が衰退した時、何が残るのか。観光は稼ぐことだけが目的でなく、地域の誇りや魅力を高め伝える手段でもあります。しかもそれがビジネスになり利益を生めば一石二鳥ですね。
A 委員	“観光って特定の業者だけが儲けてるんじゃないか”って声をたまに耳にします。でも、それだけで片付けるのはちょっと違う気がするんです。やっぱり大事なのは、観光で得た価値をどのようにして地域全体に還元していけるか、意識の持ち方ひとつで、地域の在り方も変わってくると思います。
B 委員	中村さんの例で言うと、ボランティアで頑張ってる面もあるけれど、持続可能なものにしていくには、少しずつ外貨を稼いでいく仕組みをつくる必要があります。

D 委員	2002 年の日韓 W 杯の頃は年間の訪日外客数が 500 万人を突破したとニュースになったのを覚えています。今は環境が全然違います。インバウンド関連の事業者も増え、“観光で食べていく”という意識自体が 20 年で大きく変わりました。
事務局	インバウンドは数字が示しているとおりの追い風だと感じています。今、日本全体で年間 3,600 万人超の観光客が訪日しました。実際に来てくれた外国人観光客が“徳島いいね”って言ってくれと、それを聞いた地元の人が『そんなに良かった？』って驚くことが多いんです。他者からの評価が、地域の誇り＝シビックプライドにつながる部分もあるのではないかと思います。
A 委員	国は将来的に 6,000 万人を目指していますよね。そうすると、もう大都市だけでは受け入れきれない。地方が担うしかないんですよ。徳島もその一角として、今の年間 15 万人から 30 万人を目指すには、地元の商店や飲食店も“受け入れる覚悟”が必要だと思います。
委員長	それだけ観光への期待は大きいということで、様々な意見やアイデアも出していただき、非常に有意義な時間となりました。予定の時間になりましたので意見交換はここまでにしたいと思います。
事務局	本日は、委員の皆さま方から大変参考となるご意見を頂きました。ありがとうございます。 今年度の事業に活かしてまいりたいと思います。
委員長	それでは、最後に事務局からその他の事項の説明をお願いします。
事務局	会議冒頭にも申し上げましたが、本日の議事録は、要旨を当機構や 15 市町村のホームページで公開することにより、地域住民に広く周知していくことといたします。後日、メールで議事録の確認のお願いをさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
	6 閉 会
司会	これをもちまして、本日の外部評価委員会を閉会いたします。 委員の皆さまには、円滑な議事進行にご協力をいただくとともに、活発なご意見を賜り誠にありがとうございました。
	(終 了) 時刻 11 時 45 分